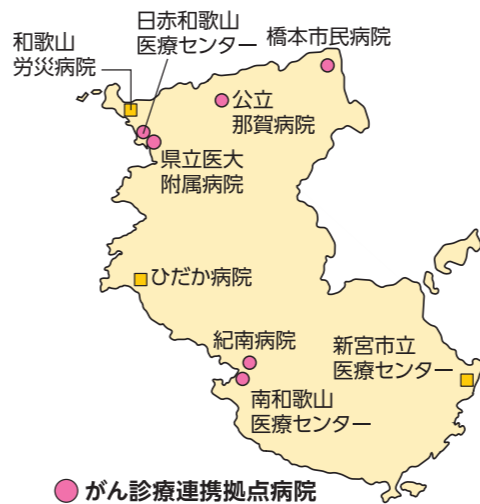


県では、今年3月、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、すべての県民とがんの克服をめざす」ことを目標に「第4次和歌山県がん対策推進計画」を策定しました。

3つの重点分野

- 「がん予防」 生活習慣の改善や検診の受診勧奨などに取り組み
- 「がん医療」 適切な医療を受けられる体制を充実させる
- 「がんとの共生」 罹りしても尊厳を持って暮らせる社会をつくる

がん医療を提供する指定病院 兼 がん相談支援センター



- がん診療連携拠点病院 (国指定): 6カ所
がん医療の中心的な役割を担う拠点病院
- がん診療連携推進病院 (県指定): 3カ所
国指定の拠点病院に準じる病院

相談対応時間などはこちら



医療提供と相談支援

適切で質の高いがん医療を受けられるよう、がん医療の拠点となる病院を指定しています。指定を受けた病院は、手術や放射線治療、薬物療法(抗がん剤)などを組み合わせた質の高いがん治療を提供します。各指定病院では、無料の相談窓口「がん相談支援センター」が設置されており、がん専門の相談員として研修を受けた看護師や社会福祉士が、信頼できる情報に基づいて、患者や家族の相談に応じています。

先進医療による治療費を支援

公的医療保険の適用がない先進医療(陽子線治療など)を希望するがん患者の方が、経済的理由により治療をあきらめることがないよう、治療費を補助しています。

補助率	
※市町村民税所得割合計額により2種類	
非課税	課税
10分の9以内 (上限額270万円)	2分の1以内 (上限額150万円)

詳しくはこちら



生殖機能の温存治療を支援

将来子どもを産み育てることを望む小児・思春期若年がん患者の方が、希望を持って治療に取り組めるよう、生殖機能の温存治療や、この治療により凍結した検体を用いた生殖補助医療に必要な費用を助成しています。

治療方法	助成上限額
未受精卵凍結	20万円
精子凍結	3万円
凍結した未受精卵を用いた生殖補助医療	25万円
凍結した精子を用いた生殖補助医療	30万円

対象者やその他のメニューなどはこちら



医療用補整具の購入を支援

治療に伴う心理的・経済的な負担軽減や社会参加促進のため、ウィッグ等の医療用補整具の購入費を助成しています。詳しくは市町村にお問い合わせください。

市町村別の実施状況はこちら



若年がん患者の在宅療養を支援

若年のがん患者の方が、住み慣れた自宅で日常生活を送れるよう、在宅サービス利用料の一部を助成しています。

対象サービス	最大助成額
訪問介護	合わせて1カ月あたり8万1千円
訪問入浴介護	
福祉用具貸与	1年あたり9万円
福祉用具購入	
居宅介護支援	1カ月あたり2万2千円

わかやまがんネットでも情報を掲載



対象者などはこちら



骨髄ドナー・さい帯血バンクにご協力をお願いします

～10月は骨髄バンク推進月間です～

「造血幹細胞移植」をご存じですか?白血病などの血液疾患に行われる治療法の一つです。造血幹細胞は血液の主成分を作る重要な役割を持ち、その移植には、患者と白血球の型が一致するドナーからの造血幹細胞の提供が必要です。

しかし、この型が一致する確率は非常に低いため、一人でも多くの患者の命を救うには、県民の皆さんの協力が必要です。

ドナーから患者に造血幹細胞を移植する方法

- 骨髄移植
- 末梢血幹細胞移植
- さい帯血移植

骨髄バンクとドナー登録

骨髄バンクは、骨髄移植や末梢血幹細胞移植が必要な患者と、骨髄液・細胞を提供してくれるドナー登録者をつなぐ公的機関です。

県では、新規ドナー登録者の確保に努めています。コロナ禍の影響等で近年登録者数が減少していますが、登録窓口の充実や献血実施時の登録会の開催により、登録者数の増加に取り組んでいます。

県内の骨髄バンクドナー登録者の状況(単位:人)

年度	新規登録者数	年齢超過等による削除者数	累計登録者数
2019	472	359	6,091
2021	146	286	5,822
2023	294	299	5,734

日本骨髄バンク「骨髄バンクデータ集」より作成

各地に登録窓口を設けています

登録はわずか2mlの採血で完了します。皆さんのご協力をお願いします。

登録窓口

- ・各保健所(和歌山市を除く)・串本支所
- ・和歌山駅前献血ルーム
- ・献血バスによる献血実施時 など



実施日程や詳細はこちら



公的さい帯血バンクとさい帯血の提供

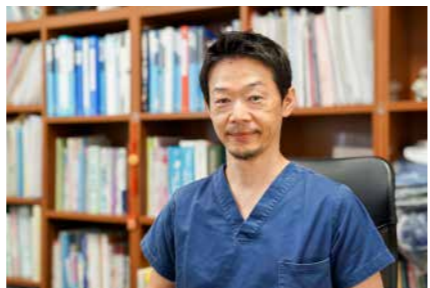
公的さい帯血バンクは、提携する産科施設から提供を受けたさい帯血を調製・保存し、さい帯血移植が必要な患者に引き渡す機関です。胎盤とへその緒を流れる血液であるさい帯血は出産時にしか採取できないため、提携産科施設では妊婦さんにさい帯血提供への協力を呼びかけています。県においても、引き続き広く普及啓発に取り組んでいきます。

提携産科施設 (すべて和歌山市内)

日本赤十字社和歌山医療センター
花山ママクリニック
はまだ産婦人科
和歌山県立医科大学附属病院

さい帯血を提供するには?

A 産科施設で説明を受け、提供に同意することが必要です。出産後、赤ちゃんへその緒が切り離された後にさい帯血が採取され、公的さい帯血バンクに提供されます。



花山ママクリニック 院長 釣谷 充弘 さん

さい帯血を含むさい帯や胎盤は、本来、出産後に廃棄してしまうものなので、それが誰かの命を救う治療に役立てられるならぜひ協力したいと思い、県の案内を受けて公的さい帯血バンクの提携産科施設となりました。制度自体の認知度はまだ低い状況ですので、お母さんが不安に感じないよう、痛みを伴わないことや出産の経過に影響がないことを事前にご説明し、協力をお願いしています。

さい帯血の提供は、お母さんと赤ちゃんにしかできないボランティアです。提供数が多いほど、移植を待つ患者さんの選択肢が広がりますので、無理のない範囲で、協力について検討していただきたいと思います。